



2022. 1 2 . 7 発行 ニュースレター第 3 0 4 号
 〒262-0019 千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-24-2
 TEL. 090-7941-7655 FAX: 043-483-0027 代表: 小西 由希子
 E-mail: yatsudasukisuki@gmail.com , Home Page: <http://www.ceic.info/>

地域の価値を掘り起こす ーパティキュラー (particular) であることの意味ー

環境NGO 度十の会 坂田 昌子

地域で環境破壊を伴う開発などが起きると、環境活動家や豊かな自然に魅かれて移住した新住人たちの前に常に立ちはだかるのは、旧住民の諦念や自然を守る活動と距離を置きたがる態度だ。旧住民の自然と関わる暮らしが減少するにしたがって、ますますこのような傾向が進んでいる。

かつて、水、食料、生活雑貨の材料など多様な恵みをもたらしてくれていた自然は、集落みんなの共有財産(コモンズ)であり、土地の私有化が進んだ後も1970年代ぐらいまでは、このようなコモンズの意識は根強かった。自然破壊は、暮らしの破壊に直結するため、環境破壊を止める活動は常に住民たちが主体だった。しかし、自然の恵みに依拠しなくても、買えば何でも手に入る時代を生きてきた世代が集落の中心となると、自然は用済みとなり、土地は坪いくらといった不動産に成り下がってしまった。そうなった時、「よそ者が勝手に反対している」「自然では食べていけない」という言葉が口にされるようになり始めた。

一方、環境活動家や移住者は、自然破壊に意義申し立てをしたくとも旧住民に遠慮し運動は行き詰まる。こんなことが今、日本各地で起きている。もちろん、山村や里山の暮らしが復活し、自然への依存度が高まればよいのかもしれないが、すでに地域共同体は、一部の地域を除いて多くは解体されきっており、一朝一夕に変革することは不可能だ。では、どうすればいいのか？

環境活動家は、自然を守る意義を語るのではなく、如何にその地域が特別であるのかを語るべきなのだ。その場合、絶滅危惧種がいる等の「特別」ではなく、その地域が持つ歴史や風土の特別さ、他と取り換えのきかない場所であるという意味での「特別」さこそが重要だ。パティキュラーという日本語に訳しにくい言葉がある。「特別の」「個別の」というニュアンスで使われる。例えばリゾート地はどこのリゾートも似たり寄ったりで3回も行けばあきてしまうが、小さな山村の農家民宿で食べた漬物の味、囲炉裏の火、夜に森の中から聞こえてくるフクロウの声…このような経験はパティキュラーなものとして記憶に深く刻みこまれる。そこで暮らす者にとっては当たり前でしかない

のに…パティキュラーな価値は、地域外から来た人にしか見いだせない。外から指摘されてはじめて地域住民はその価値に気付く。移住者や環境活動家の大事な役割は、まさにそこにある。

本当はどんな地域でもそこで長く暮らして来た人々にとっては「特別」であるはずなのだ。しかし、自然の価値の損失、経済発展中心の価値観は、パティキュラーな感覚を奪い、地域住民に「こんな何もないところ」と言わしめてしまっている。自分たちの土地は交換可能なものではないこと、集落の行事や祭り、食べ物、井戸や石垣といったものも含めた風土が、如何にパティキュラーなものであり、外部の人を惹きつけるのかをわたしたちが発信し続けることで、地域の人々は誇りを取り戻すことができる。

様々な地域を訪れてわたしが感じるのは、どこに行っても年寄りたちがいきいきと語り始めるのは、集落で苦勞して湧き水を引いたこと、自慢の漬物や煮物の作り方、山であった怖い話などだ。そんな話をしていくうちにダムはいかん、高速道路はいらんという話になり盛り上がる。それは年寄りたち一人一人のマイストーリーであると同時に、コミュニティのストーリーでもあることが、わたしは羨ましいといつも感じる。古いが新しくもある価値を掘り起こすことが出来れば、それは自然を守るという現状維持にとどまらず、地域の未来を切り開く道筋をも示してくれると考えている。



編集部より参考資料として提示:一宮町の魅力を再発見しようと実施された発表会「一宮の豊かな自然と文化を次の世代に伝えよう」。多くの移住者(新住民)が企画・参加した。(2022年11月19日、会場:一宮中央公民館、撮影:田中正彦)

お米にまつわるミャンマーの話 第6回

～クリスマスとカレンのお正月とパウン・ディン（竹筒ご飯）の話～

千葉市若葉区 岩沢 久美子

日本では、ハロウィンの終わりと共に、一気に街がクリスマス仕様になりました。ミャンマーでも、11月の満月の祝日、「ダザウンダイン」と呼ばれるお坊さんに袈裟を寄進するお祭りが終わると、街は一気にクリスマス一色になります。ショッピング・モールの入り口には巨大なクリスマス・ツリーが登場し、街中のネオンもクリスマス仕様が変わります。

常夏のミャンマーでも12月頃は少しだけ気温が落ち着き、なんとなく年末らしい空気を味わうことができます。「仏教国であるミャンマーでクリスマス？」と思うかもしれませんが、私の周りにいた敬虔な仏教徒も含めて皆、日本と同じように自宅にクリスマス・ツリーを飾ったりして、クリスマスをお祭りとして楽しんでいました。職場では年末のこの時期に忘年会がありました。

日本の忘年会と違い、職員だけでなくその家族が皆集まって食事をしたりゲームをしたりと賑やかなパーティーをやりま



パウン・ディン。表面の白いものは、竹の薄皮。塩をつけて食べるととても美味しい。

その時も同僚がサンタに扮して、子供たちにプレゼントを配ってくれました。娘も毎年の忘年会をとっても楽しみにしていました。

我が家は、ナニーもメイドも運転手も皆、キリスト教徒なので、より気合を入れてクリスマスを楽しんでいました。12月に入るとクリスマス・ツリーを飾り、ツリーの下にプレゼントを置いておきます。我が家からそれぞれの使用人とその家族へのプレゼント、使用人からも娘や私用のプレゼントを徐々に置かれていき、クリスマス前にはツリーの下はプレゼントの山になります。そして、お互いのプレゼントを開けるのを楽しみにクリスマスまで過ごすのです。本来は25日のクリスマス当日にお互いのプレゼントを渡し合うのが普通ですが、クリスマスには使用人も休みに入ってしまうので、いつも少し早めの23日頃にプレゼント交換をします。プレゼントはバッグなどの小物もありますが、ロンジーと呼ばれるミャンマーの民族衣装もよく贈りました。

数週間待つてついにお互いのプレゼントの包みを開けるときは毎年大変盛り上がります。

ところで、我が家の使用人が皆カレン族という少数民族の出身だというお話をしたかと思います。年末年始のこの時期は、カレン族にとっても一つとても大事なイベントがあります。それが、カレン族のお正月です。太陰暦を使っている関係で、毎年日にちは変わりますが、大体、お正月前後1週間の間のどこかにあたります。ミャンマー人のお正月は4月の水かけ祭り「ティンジャン」ですが、民族意識の強いカレン族にとって、カレンのお正月はとても重要なお祭りであり、皆、その日はカレンの民族衣装を着てお祝いをします。

普段は歩きにくいと言って、ロンジーを拒み、着るものといったらTシャツと長ズボンばかりの我が家のナニーのパオパオも、カレンのお正月だけは気合を入れて、カレンの民族衣装を着てお祝いをしていました。娘も民族衣装を着て（着せられ？）、パオパオの友人と一緒にお祭りに出掛けていました。お祭りの日は、集会があり、カレンの歌手が出て歌を歌ったり、踊ったりして、民族の団結を確認し合うというとても重要な意味を持っているようです。



パオパオと娘。カレンの民族衣装を着て、お祝いに参加。頬につけたシールはカレン族の旗。

お祭りによく食べられるカレンのお正月料理が色々あるのですが、よくお土産に持ってきてくれたのが、パウン・ディンです。パウン・ディンとは、太い竹筒に餅米を入れて火に入れて、竹筒の中で調理したご飯です。餅米は、白い米もあれば赤米の時もあります。味付けもないとてもシンプルな料理ですが、竹から出す際、餅米に張り付いた竹の内側の薄皮ごといただくのですが、その薄皮が炭焼きのような独特の香ばしい香りを米に移してとても美味しいです。

カレンのお正月、そしてパウン・ディンの味は、クリスマスと並んでミャンマーでの年末年始の特別な思い出の一つです。

九十九里海岸のスナメリ (前編)

大網白里市 平沼 勝男

鳥好きの私は自宅からそう遠くない九十九里海岸に毎週のように行っていますが、そこでたびたびスナメリと出会い、写真を撮るようになり、そのうちにスナメリが好きになってしまいました。私は研究者でもなく、単なる自然好き、写真好きだけの人間ですが、最近は千葉県中央博物館の海産哺乳類の研究者に写真や情報の提供をしています。千葉県では、自然界のスナメリの情報が少ないようで、喜んで頂いています。私の出会ったスナメリの写真や情報をお伝えします。

<スナメリの基本情報>

スナメリは日本で生息する最も小さな鯨の仲間です。体長は2メートル以内。背びれはありませんが、背の中央が盛り上がり、キール状になっています。沿岸性で1頭から5・6頭の群れで行動する姿が見られます。小さな子鯨と並んで遊泳する親子の姿もよく見かけます。銚子では数十頭の群れで魚を追う姿もみられるそうです。

<スナメリの見られる場所>

私の九十九里海岸での行動範囲は、南はいすみ市の夷隅川河口。北は九十九里町の片貝漁港を越えた作田海岸までです。その間の海にはどこでもスナメリを見ることができます。これは大げさではなく、岸からそう遠くない場所を注意深く、根気強く待つと、かなり高い確率で見ることができます。私は行きませんが銚子はスナメリで有名です。大原港もスナメリで有名です。ということは千葉県の太平洋側の沿海では、どこでもスナメリを見ることができると思います。

<枝で遊ぶスナメリ>

頭の先に枝を乗せて遊ぶスナメリを見ました。5・6頭の群れの中の1頭でした。最初は何をしているのか不明でしたが、写真を見て納得。可愛いですね。知能も高いのでしょう。場所はいすみ市の夷隅川河口にある防波堤。この近くには夷隅川河口干潟があり、干潮時に行くと様々な干潟の生きものに出会えます。野鳥も多い場所です。国の天然記念物の指定を受けた太東海浜植物群落にも近く、一年を通じて楽しいところです。(写真①)



写真① 枝を頭に乗せて遊ぶスナメリ

<鳥を呼ぶスナメリ>

スナメリを一番簡単に見つける方法は鳥です。ウミネコやオオミズナギドリを集め、いわゆる鳥山をつくります。少ない時は1羽、多い時は数百羽に及ぶときがあります。不自然にその場所だけに鳥が集っていれば、そこにスナメリがいる可能性が高いです。しかしスナメリが餌をとっていても鳥が来ないときがあります。この違いは謎です。



写真② オオミズナギドリを集めたスナメリ

印象深かったのは一宮の東浪見海岸で見た光景です。海沿いの道を車で運転中に海の方に目を向けると、普段そんなに岸近くにいないはずのないオオミズナギドリが数百羽、舞うように飛んでいました。何かがあると思い、近くの太東漁港に車を止め、カメラを担いで防波堤に急ぎました。オオミズナギドリが約150羽。興奮したかのように着水と飛行を繰り返します。犯人が海面に現れました。やはりスナメリでした。(写真②) つづく

新浜の話58 ~みなと池 1993~

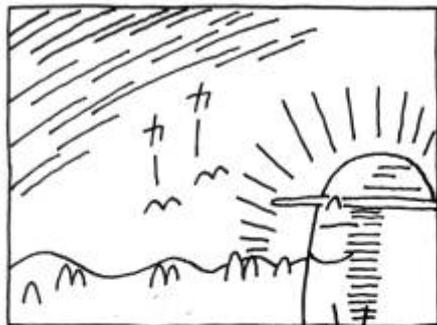
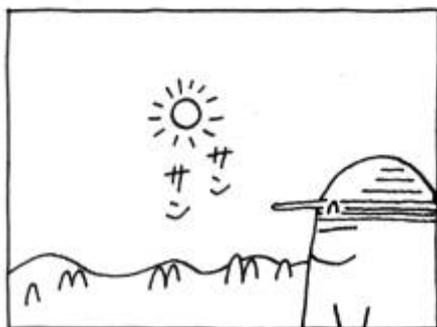
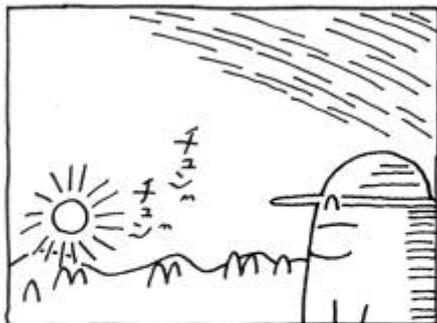
1993年の2月だったか、3月だったか。千葉県の当時の担当の方から電話がありました。

「工事費として400万円くらい使えるのだけれど、何かやりたいこと、ある？」

もちろん、あるに決まっています。トヨタ財団の研究コンクールでいただいた助成金で造成した上

千葉県野鳥の会 市川市 蓮尾 純子
池・下池の2面の浅い池。水の浄化に加えてセイタカシギが8組も営巣し、水鳥にとって大切な湿地になっているところ。もっともっと増やすことができればこんなありがたいことはありません。

「1週間くらいで計画書が作れるかな？」
ええ、できますとも。やりますとも。



つやまあきこウェブサイト
21世紀絵コロシアム http://www.21eco.net

年度末までの期間はわずかでしたが、こうして千葉県の手で「みなと池」が造成されました。

みなと池は100メートル×60mほどの広さ。全体の3分の2は地表面を1m掘り下げて、掘った土を残る3分の1にあたる1辺に斜面になるように積み上げ、残りはこれまでの池と同じく周囲に積んで土手とします。土手上はリヤカー等が通れるように、1.5mほどの幅。水源はトヨタ池と同じく湊排水機場遊水池（どぶ池）の雑排水。水鳥が利用しやすいように1mの深さをとったのですが、水の浄化機能のためには深すぎる。雑排水の浄化が進むようにあれこれと工夫を。斜面を5段に分けて、水を上段から順番に流し、池本体に入る時にはある程度の浄化が進むように、また斜面から水が流れ込む部分、池本体の4分の1については掘り下げを40cmと浅く。

とてもありがたいことには、1992年秋、市川南ロータリークラブが友の会の湿地復元の活動への援助を申し出ていただきました。そして新しい池へのポンプや配管、水車設置等々の経費を負担してくださることになったのです。みなと池は行政（千葉県）、地元（市川南ロータリークラブ）、環境団体（行徳野鳥観察舎友の会；2021年からは「行徳自然ほごくらぶ」と改称）の3者が協力して誕生した池です。なんともうれしいこと。

今回も、工事が始まってからは10日ほどで池の造成は終わりました。しかし、水を入れるための各種設備、ポンプ、「どぶ池」の水質改善のための水車設置、それらの運転のための電気設備工事等々の許認可がいつこうに進まない。千葉県の工事なので、前回、任意団体ではない友の会がトヨタ財団の研究コンクールの助成金を得て造成した上池・下池（後にトヨタ池と総称）の時よりは楽に話が進むだろうと思っていたのは、甘かった。

結局のところ、いろいろな手続きが無事に終わって、みなと池にポンプ揚水がはじまったのは、1994年1月なかばのことでした。それまでに、5段の池がきちんと機能するように、手作業で土手や水路をめぐらせて、準備作業を続けていました。

5段の池は、後に1段を二つに分けて、10枚の棚田として整備しました。理論上は、10枚の棚田のうち1枚だけに水を入れることも、1枚だけを干上げることでもできるようにと構造を考えたのですが、なかなかどうして。池ができて水が入れば、無数の生きものたちが利用するようになります。オケラやミミズからはじまって、ザリガニやクロベンケイガニ、大きなものではマスカラットまでが住みついて、せっせと生活のために穴を掘ります。ほんものの棚田を維持管理される方のご苦労が、身に沁みてよくわかりました。重機を使うようになるまでは、畔や水路の手入ればかりか、堆肥を作ったり、全面的天地返しをしたり、耕したり、ぜんぶ手作業でがんばっていたものです。

【発送お手伝いのお願い】ニュースレター2023年 1月号（第305号）の発送を 1月 6日（金）10時から千葉市民活動支援センター会議室（千葉市中央区中央2-5-1 千葉中央ツインビル2号館9階）にておこなう予定です。ただし新型コロナウイルス感染の拡大状況によっては中止する場合がありますので、お手伝いいただける方は事務局（小西 090-7941-7655）までご連絡ください。

あなたも入会しませんか キリトリセン

住所 〒 _____

ふりがな 氏名 _____ Tel _____

E-mail _____ FAX _____

会費の郵便振替口座は00130-3-369499です。

編集後記:11月19日に一宮町中央公民館で実施された「一宮の豊かな自然と文化を次の世代に伝えよう」に参加しました。一宮町で生まれ育った生粋の地元民やここに移住してきた新住民が一宮町の魅力と可能性を発表しました。新住民が都会にはない自然の豊かさに気づく反面、失われていった自然も大きいことが地元民から指摘されました。自然とどうつきあっていくか考える良い機会になりました。mud-skipper

☆第 209 回 小山町 YPP 「糶摺り作業」 2022 年 1 1 月 2 6 日 (土)

今年も NGO さんにも場所をお借りしてもみすりを行いました。この日は強い雨が予想され作業への影響が心配されましたが、古民家の軒先と土間をお借りしたおかげで、快適に作業を行う事が出来ました。また、下大和田の米作りに参加されている方 1 名が作業に参加され、ご自身の作られた貴重なコシヒカリも糶摺りされました。カモやイノシシ被害にあい、多少収穫は減りましたが、天候に恵まれ豊作の年になりました。お米の質も良かったのもうれしかったです。参加者 5 名 (大人 5 名)

☆獣害対策の集落説明会 2022 年 1 1 月 1 8 日 (金)

小山町集会所にて獣害対策の集落説明会が開催され、YPP 小山から 1 名出席しました。千葉市の方が専門家を招き、専門家のお話を 1 時間半じっくりと伺いました。その後、出席者含めての意見交換でしたが、30 分という時間ではまとまらず、2 回目も開催する事となりました。地元の方々の話では主に被害は、畑に集中している様で、(おそらくハクビシン等が多い?) 田んぼについてのお話は少なかったため、YPP 小山のイノシシによる田んぼの深刻な被害状況について説明しました。

【谷津田・季節のたより】 2022 年 1 1 月

<下大和田町> 報告：田村光範

古代米の脱獄も終わり、コシヒカリと合わせて糶摺りを行いました。お米作りの全ての工程が終わり、いよいよ楽しみにまった新米が食べられますね。

谷津田の森は一面落ち葉に、覆われて歩くとカサカサと秋の音がします。アオジやカシラダカなど谷津田の冬鳥たちがやってきました。その中に特定外来生物に指定されているガビチョウがにぎやかに鳴いています。中国産でペットとして飼われていたものが繁殖しているそうです。

<小 山 町>

11/7 コロコロした狸 2 ひき、休耕田へ走り去る (たんぼぼ)

11/18 秋の虫たちはほぼ退場。ジョウビタキの声、小山谷津のあちこちから届く (赤シャツ親父)

11/20 ルリビタキに会う (高山)

11/28 りんどう広場前の紅葉、ほぼ散って真っ赤な絨毯。(赤シャツ親父)

【イベントのお知らせ】 主 催：NPO 法人 ちば環境情報センター

連絡先：小西 TEL. 090-7941-7655 , E-mail : yatsudasukisuki@gmail.com

<下大和田谷津田> ※ 1 2 月 1 0 日に予定されていた「収穫祭」は中止になりました。

・森と水辺の手入れ

日 時：2022 年 1 2 月 1 8 日 (日) 9 時 45 分～1 2 時 雨天中止

内 容：田んぼの畦の整備をします。

持ち物：長袖長ズボンの服装、軍手、帽子、飲み物、午後まで活動する方は弁当、敷物

参加費：無料

・第 276 回 下大和田谷津田観察会とゴミ拾い

日 時：2023 年 1 月 8 日 (日) 9 時 45 分～1 2 時 雨天決行

内 容：冬鳥の観察を中心に、鹿島川合流部まで巡ります。

持ち物：筆記用具、飲み物、長袖長ズボンの服装、長靴 (通常の)、帽子、あれば双眼鏡、ゴミ袋

参加費：100 円

・第 286 回 下大和田 YPP 「どんど焼きと昔遊び」 ※新型コロナ感染状況により内容等が

日 時：2023 年 1 月 1 4 日 (土) 9 時 45 分～1 4 時 雨天中止 変更になることがあります。

場 所：下大和田 わいわい広場

内 容：正月飾りや、かかしをお焚き上げします。ベーゴマやけん玉などの昔あそびもします。

持ち物：お椀とお箸、長袖長ズボンの服装、帽子、ゴミ袋、飲み物、敷物。

参加費：300 円 (小学生以上)

<小山町谷津田>

▼第 210 回 小山町 YPP 「畦の整備」

田んぼの整備を行います。来期に向け、大変地道な田作りの始まりです。

日 時：2022 年 1 2 月 1 7 日 (土) 1 0 時～ ☆小雨決行

場 所：りんどう広場

参加ご希望の方は、赤シャツ親父 (e-mail; tomizo_i@nifty.com) までご連絡下さい。

